

特集 自ら学ぶ子どもたちを育てるために

授業と家庭学習を結ぶ

津田雅子

(東京都練馬区立大泉中学校)

1. はじめに

昨年度から職場では、授業改善のための研修が熱心に行われている。この動きは東京都や練馬区において行われ始めた学力テストの結果を見ての動きと連動している。生徒の学力向上を図るには、教師の授業力を高めていく必要があるとの視点に立って実施されていると思われる。

しかし、授業の改善が十分に行われたとしても、生徒の学力を向上させるのは容易なことではない。なぜならば、授業で獲得した力を定着させるためにはさらに時間をかけた学習の積み上げが必要になってくるからだ。週3時間の授業から学習の連続性をいかにして作り出していくか。ここでは日々の実践の中から「授業と家庭学習を結ぶ」取り組みについて紹介する。

2. 授業のフォローアップ

学習の定着を図るために、我々はどのような試みをしていけばよいのだろうか。前述したように授業を終え、そのあとのフォローが全くないとすると、生徒がその日学習したことを次の時間までしっかり覚えておくことは難しい。input から intake, そして output へと指導を進めていきたいと考えていても、intake がうまくいかず、output へは大変遠い道のりになってしまう。週3時間の体制の中では、授業と授業の間に時間的な断絶ができてしまうので、家庭学習を通して生徒に学習した内容をフォローアップさせる機会を与える必要がある。そこでこれまでの経験から次のような取り組みを実践している。

(1) ワークシートを通して再度学習の確認を

授業と家庭学習を結ぶものとして、ワークシートの取り組みがある。ライティングの指導の際、教科書での活動を終えたあと、ワークシートを配布し、学習したことを再度書かせ提出させるのである。最近の教科書は、教科書の中に書くためのスペースがあるので、簡単な内容に関しては教科書に直接書かせているが、それだけで終了とせず、ワークシートを与え、再び書かせ提出させている。このことは、生徒に自分の書いた文を再度振り返らせ、間違った箇所への気づき、訂正、さらに、fluent な文を書くチャンスを与えることにもつながっている。50分という限られた授業時間内ではゆとりある指導はできない。この取り組みは学習の定着を図る上で大変有効である。

「ワークシート」の例

Let's Write! Class No. Name _____

1. 最近あなたが経験したことについて、友だちに語るメールを書こう。
教科書p.28のモデル文や Tool Box を参考にして書こう。

Hi, Yumi.
I just wanted to say hi.
I found an interesting comicbook.
The title "Jigokukoushien."
I hope to hear from you soon.
Hitomi

2. あなたの将来の夢を書こう。
モデル文を参考にして書こう。

I want to be a soccer player.
I want to play in the World Cup.
I want to be like Sawa and
Arakawa, Kawakami too. I like
them very much!

●自己評価しよう。
Very Good A
Good B
Not Good C

●コメントを書こう
イキナリ自分だけ書いておもしろい。でも、
かたがたおこねから参加したいと思う。

●Mike先生より一言コメント
Excellent! nice picture!

(2) ワークブックの教師チェックを

前述したワークシートはライティングを中心としたものだが、普通の授業の復習としては、新出単語、基本文の練習、リーディングの練習などが考えられる。リーディングについては、授業内でかなり力を入れて練習し、家庭でも継続的に練習するように指導しているが、多くの生徒が声を出して読むことに抵抗を感じずに取り組んでいるようで、うれしく思っている。

単語を含め、文法事項の復習としては市販のワークブックを活用している。日々の学習を定着させるためのワークシートを作成する時間がないこと、また、市販のワークブックは文法事項の練習問題が簡単なものから難しい問題までバランスよく盛り込まれていること、さらに、内容理解に関わる問題、real communication となる質問などバラエティーに富んだ練習ができるようになってきていることなどから日々活用している。生徒は問題をやり終えたあとに自分で答え合わせを行い、間違ったところは赤で訂正し、提出する。以前は定期考査終了後に提出させ、チェックを行っていたが、チェック回数をできるだけ多くし、生徒が学習に少しずつ取り組むことができるように各レッスン終了時に毎回チェックするようにしている。

3. 予習

現在の2年生は、1年2学期後半から予習の取り組みを始めた。1年生の前半は、まずはその日学習した内容をしっかりと復習することが大切だ。しかし、2学期後半から復習をすることが定着し、学習への関心や意欲も深まることから、「予習ノート」を作らせている。

「予習ノート」の内容は、

- ①単語コーナーを作り、調べた意味を書く。
- ②教科書本文を書き写し、わかる範囲でその意味を書く。
- ③残ったスペースに単語と基本文を最低5回ずつ書く。

といった簡単な形式だ。意欲的に取り組んでいる生徒は授業前にスタンプをもらいに来る。中には、レッスンの全てをやり終えて持って来る生徒もいる。そ

うした生徒のノートからは、一生懸命に学習した足跡が見える。しかし、そういう生徒ばかりでないのは当然である。予習ノートとはならず、復習ノートとなってしまふ生徒もいる。しかし、日々の学習をそのままにして、次のセクション、レッスンに進んでいくことは避けたいので、復習ノートとなっても継続して取り組ませるようにしている。各レッスン終了時に、ワークブックとともに予習ノートのチェックを行う。事前に予習ノートを提出し、すでにスタンプをもらっている生徒、チェック時に初めてスタンプをもらう生徒、授業中にも取り組んでいることになっているので、必死になって取り組む生徒など、色々な状況がある。提出者数を見てあまり状況がよくない場合は、次回まで提出可能とし、多くの生徒が合格点を獲得できるように努力している。

この「予習ノート」のスタンプの数は学期ごとに集計し、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の一つとして成績に入れている。生徒の中には成績をつけられるから提出するという生徒もいる。本来のノートの取り組みの意義を理解せずに、ただスタンプ獲得のためにノート作りを行っている生徒のノートは、字が乱雑だったり、工夫のないノートに終わっており、取り組み自体が意味のないものになっている。この点については、授業内で何度か指導をしているが、教科以外の領域も使って与えられた課題に向かって、意欲的に真面目に取り組む姿勢を育てていくことが必要であろう。

また、今後は授業で学習した基本文を使って、自己表現をさせるコーナーをノートに作っていくことを計画している。

4. おわりに

生徒たちは、放課後の部活動、習い事、塾など毎日忙しく活動している。しかし、前述したように、授業だけで生徒の学力を伸ばすことはできない。授業と家庭学習を結び何らかの取り組みが必要である。ここに挙げた事柄は特に物珍しいものではないが、教師自体が意欲的に、継続的に取り組んでいくことが生徒の意識を変えていくことにつながると信じ、今後も継続していきたいと思う。